



# 全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発行日 2020年12月25日

発行NO 2020 - 39号

12月23日(水)

## 第3回理事会を初の「WEB (Zoom) 会議」で開催



(画面の参加者紹介)

- ・上段 左：鶴園理事 中：ホスト会場（陣野原事務局長、神谷専門員、引地監事、山田常務理事） 右：橋谷理事
- ・中段 左：牧原理事 中：安井理事 右：隅理事
- ・下段 左：長嶋理事 右：金子理事長

(欠席者は、松永理事・布施監事)

- ◎ 全日畜は12月23日(水)、政府が、令和3年度の本予算と令和2年度の第3次補正予算併せて3兆3569億円の、いわゆる「15ヶ月予算」を閣議決定したタイミングを捉えて、第3回理事会を開催した。この理事会は、全日基の会議室をホスト会場として、北海道から九州まで各理事の農場等をネット回線で結んでの、初めてのテレビ会議として開催。
- ◎ 金子理事長は、「今年は、コロナの影響で色々なことが中止になり、気分的には何か損をした様な1年だった、皆さんも健康には気をつけて」と開会で挨拶。会議では、コロナ禍の下で工夫を凝らして実施してきた事業の報告と、第4四半期の事業計画等について審議が行われた。
- ◎ 会議では、全国で開催を計画した調査のための集会等で、コロナ禍の下でも実施が可能なように工夫して開催したワークショップ等が報告。これらについては対応を評価した上で、不参加の方への普及啓発についても工夫して、との意見があった。第3四半期の事業計画では、令和3年度の新規公募について積極的な対応方針が確認された。また、各理事から直近の生産現場からの状況報告（コロナ災害、畜産クラスター、養豚の防疫等）があり、今後対応を検討していくこととなった。

(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）
- ・協同組合 日本飼料工業会（工業会）
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）

12月21日（月）

## 「第3回 運営委員会」を初のWEB（Zoom）会議で開催

（写真① 自社から会議に参加された運営委員のみなさん）



◎ 全日畜は12月21日（月）、全日基の会議室をホスト会場として、事業の実施状況等を点検する第3回運営委員会を、初の「WEB会議」として開催しました。

◎ 第3四半期までの経過報告では、コロナ禍の影響を受けて、当初計画どおりの実施は困難で、調査事業の調査スタイル等は、調査先の協力者と協議して、地域の実情に応じてケースバイケースで工夫して実施してきた状況が報告された。

◎ 年内の重点活動であったアンケート調査（JRA事業「自然災害」）の実施状況については、500の回収目標に対して、12月11日現在で458（92%）を回収できたこと、これまで3回のアンケート調査で最高の回収率であること、回収データは地帯別・畜種別にもバランスが取れていること等が報告され、年度末の報告書作成に向けてデータの集計・解析を進めると報告。

◎ 併せて「全日畜の在り方検討」のために組織した「小委員会」の活動報告については、受託した調査事業の進捗を優先した関係で、委員会の開催は遅れているが、事務局による課題の深掘りは実施中と報告。委員からは、今後の全日畜の運営に関わる重要な検討であり今後の進捗を期待する、また知恵を沢山出してもらって良い方向性を整理して欲しい、との意見が出された。

◎ 令和3年度に向けた新規事業への応募については、積極的な対応が支持され、飼料流通だけでなく地域に内在している地域資源の循環利用（農畜連携）を啓発することは、全日畜が取り組む課題として相応しいとの意見が多くあった。また、令和3年度の畜産振興事業については、年明けに公募を開始予定の団体もあり、引き続き情報を注視して対応していくことを確認した。

（写真② ホスト会場の様子から）



（文中での団体の略称標記について）

・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）

・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）

・協同組合 日本飼料工業会（工業会）

・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）